

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 39 号 (平成 28 年 1 月発行)

平成 27 年 10 月 14 日 (水) に平成 27 年第 3 回定例会が開会され、10 月 23 日 (金) に一般質問と認定 2 件の審議が行われました。

一般質問では、彦坂公之議員 (三重県議会選出) と荒木美幸議員 (四日市市議会選出) が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

彦坂 公之 議員



○ **四日市港が港としての役割・機能を生かして、地域に貢献し、存在感を示していくためには、三重県との産業政策面での連携が重要になってくると考えるが、どのように取り組んでいくのか。**

◎ 三重県では、「みえ県民ビジョン」の第 2 次行動計画を策定中であり、四日市港を強靱で多様な産業という産業政策の中で位置づけ、産業を支える港としての役割を明確にした。さらに、「みえ産業振興戦略」の改訂を行っており、管理組合も「ものづくり戦略分科会」の委員として関わっている。また、毎年県と共同で国へ港湾施設整備や防災対策といったハード整備促進のための提言活動も実施するなど、様々な施策の推進に向け、連携して取り組んでいる。

今後、連携を強化していくことにより相乗効果を生み出し、三重県の産業構造の強化を図るとともに、四日市港長期構想の基本理念である、「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」が達成できるよう、着実に取組を進めていく。

荒木 美幸 議員



○ **四日市港ポートビル 14 階の展望展示室「うみてらす 14」の来場者を対象に管理組合が実施したアンケート調査から、どのようなニーズを読み取り、今後どのように対応していくのか。**

◎ 展望展示室の有料来場者を対象にアンケートを行い、半数近い 1,713 名から回答を得た。結果、県外からの来訪者が約半数を占め、さらに夜間開館時では約 7 割が県外からの来訪者であったことは特徴的であった。アンケートを踏まえ、サービス向上のために展望展示室では 11 月に日本夜景遺産認定を記念した写真展を開催し、日曜・祝日の夜間開館を希望する声に対し、今後より多くの利用が可能な開館時間を検討していきたいと考えている。また、ボランティアガイドの育成等も行っていく。県外からの来訪者が増えることは港全体の賑わいにもつながり、県民・市民が四日市港に対して興味・関心を持ったり、港の魅力を再認識したりするきっかけにもなるため、今後、県外からの誘客に取り組む三重県や四日市市等ともさらに連携を強化していく。